

滋賀県文化振興基本方針(第2次)

～文化で滋賀を元気に！～

平成28年(2016年)3月策定

平成28年度から平成30年度までの総括(案)

未来の文化の担い手の育成

◆重点施策3

子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実

◆重点施策4

若手芸術家等の育成・支援

◆重点施策5

文化活動を支える人材(アートマネージャーなど)の育成・支援



2. 未来の文化の担い手の育成

重点施策3 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実

子どもや若者が、滋賀の豊かな伝統文化や生活文化、芸術文化に実際に触れ、体験することは、地域に誇りや愛着を感じるきっかけになるとともに、未来の文化の担い手、地域の文化活動を支える人材の育成にもつながります。

滋賀の子どもや若者が音楽、演劇、美術、文化財、生活文化など地域の様々な文化に親しみながら、感性を高め成長している姿を目指して、文化施設、学校、地域など一層の連携をしながら、滋賀の本物の文化に触れる機会を増やしていきます。

【重点施策3の総括(成果と課題)】

各県立文化ホール・近代美術館の実施事業において芸術鑑賞をした小中学生数は、びわ湖ホール舞台芸術体験事業や各県立文化ホールの自主公演に参加した小中学生、近代美術館や県立文化ホールが学校や地域に対して実施する出前授業や出張公演に参加した小中学生の合計であり、各県立文化ホールの自主公演の内容や回数によって、参加人数に変動がある。目標人数は未達成であるが、びわ湖ホール舞台芸術体験事業や美術館の出前授業等は参加児童が純増傾向にあり、参加校のリピート率も高い。

びわ湖ホールの自主公演については、多くの公演において青少年料金を設けているが、青少年の入場数は約4,000人(入場者全体に占める割合約9%)に留まっており、料金の設定だけでなく、併せて青少年の来場を促す取組が必要である。

文化芸術の体験学習を行う児童生徒数は、県が事業実施を支援している滋賀次世代文化芸術センターにおいて実施している連携授業を体験した生徒数(延べ)の合計であるが、授業を実施する学校の生徒数によって変動するとともに、学校が文化芸術体験にける時間の確保が困難になっているという現状も影響し、目標数値に対しては横ばいで推移している。一方で、多様化する学校現場のニーズに対応するため、小中学校だけではなく、適応指導教室等に文化芸術体験プログラムを提供する等、幅広い対象者に文化芸術の体験学習の機会を提供している。

しがこども体験学校は、県から施設、企業、NPO等の各団体に案内を送付し参加を呼び掛けることによって、県内全小学生を対象に体験活動の場や社会的経験の機会を提供する取組であるが、参加団体は目標には達していないものの、ホームページ等の情報提供により純増傾向にある。一方で、子どもの体験活動の実施場所に地域差が大きく、今後地域差を少しでも縮小していけるよう、新規団体の獲得にも努めていく必要がある。

文化財等に親しむ取組については、まだ十分にできていない部分もあり、今後、文化施設や地域など一層の連携をしながら、子どもや若者が滋賀の様々な文化に触れる機会を作っていく必要がある。

【評価指標】

評価項目	平成26年度 (現状)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和2年度 (目標)
(各県立文化ホール・近代美術館の実施事業において)芸術鑑賞した小中学生数	26,590人	25,621人	28,899人	27,658人	30,000人
文化芸術の体験学習を行う児童生徒数	10,230人	10,135人	8,594人	9,516人	14,000人
しがこども体験学校参加団体数	134団体	143団体	146団体	155団体	200団体

【主な取組結果】

①子ども・若者向け公演・展示などの拡充

■県立文化ホールにおける青少年向け舞台芸術公演などの開催

びわ湖ホールにおいて、U25、U30をはじめ、青少年向け料金を設定することにより、青少年が舞台芸術に親しむ機会を促進した。また、文化産業交流会館において、ニーズの掌握とプロモーター折衝等に努め、タイムリーかつエンタティメント性ある鑑賞系公演の事業展開を図った。

■県立美術館・博物館における青少年向け文化・芸術体験プログラムの提供

安土城考古博物館のテーマである城郭と考古の魅力についての展示や、普及啓発事業等を通じて親しむ機会を提供するとともに、県内外の人に本県の歴史文化に対する理解を深める機会を提供することができた。

びわ湖ホールで、子ども、家族向け公演を実施することにより、子どもの頃から舞台芸術に親しむ機会を創出した。また、文化産業交流会館において、事業計画の段階から、ファミリー向けの県民協働企画提案事業の組み入れや芝居小屋「長栄座」舞台上での展開など新たな工夫に努め、好評を得るとともに施設の周知や館の好感度（親近度）向上を図った。

陶芸の森ではつつっこプログラムを通して、子どもおよび障害者が「土」という素材を用いて、ものをつくることの喜びや感動を体感する機会を提供することができた。

■若者向け広報の充実

アール・ブリュットネットワークや美の滋賀に関する取組についてSNS等を活用し、広く情報発信を行った。

■県立美術館・博物館における小中学生などの観覧料の優遇等による鑑賞の促進

近代美術館では、企画展の小中学生料金の設定、学校団体での鑑賞の観覧料免除等を行った。平成29年度からの休館に伴い休止したが、平成28年度の企画展観覧者数36,821人のうち中学生以下は3,446人であった。

陶芸の森では小中学生の鑑賞の免除を行い、平成30年度は企画観覧者数21,413人のうち中学生以下は3,496人であった。

②地域における文化体験学習の充実

■放課後子ども教室や土曜日の教育支援事業の実施

市町が取り組む、放課後子ども教室や土曜日の教室支援事業で、市町において多様な学びや体験活動、文化活動を行うことのできる体制の構築が図られた。

■子ども向け体験プログラムの充実

学校向けに各県立施設等が実施する体験プログラムをまとめた冊子を作成し、県内の学校や県立施設等に向けて広く配布することで、子どもたちが文化芸術に触れることのできる情報提供の機会の拡大を図った。

■地域活動における文化体験プログラムの提供

近代美術館において、親子を対象としたワークショップを実施する「たいけんびじゅつかん」や、県内の小学校に直接出向き、アートに親しむ授業やワークショップを実施する「学校出前授業プログラム」、地域の要望に基づき出張講座、ワークショップや鑑賞会を開催する「地域出前プログラム」を実施した。

陶芸の森では、子どもや障害者が、地元作家や地域ボランティア等との協働により、「土」という素材を用いて、ものを作ることの喜びや感動を体感することにより、心豊かな人材育成を目指すつつっこプログラムを実施した。

③学校教育における文化体験学習の充実

■県内の全ての小学生などを対象とした本物の舞台芸術に触れる機会の提供

びわ湖ホールのアウトリーチとして、びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバーが学校の体育館等でコンサートを行う「学校巡回公演」により、鑑賞機会を提供した。また、びわ湖ホール舞台芸術体験事業（「ホールの子」事業）では、学校等との連携により、県内全ての小学校などを対象として本物の舞台芸術に触れる機会を提供し、平成28年度から平成30年度までの3年間に約25,000人の生徒が参加した。

■学校における文化施設、芸術家などとの連携による文化・芸術体験学習の実施

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、特別支援学校と小・中・高등학교が連携し、障害のある子

インクルーシブ教育プログラムの構築に向けて、特別支援学校と小・中・高等学校が連携し、障害のある子どもとない子どもが共に障害者スポーツや文化・芸術活動を体験する「インクルーシブ・プログラム」により、交流および共同学習を推進した。

■学校における地域の文化的資産などを活用した文化活動の促進

地域の人々や企業・団体・NPOが提供する学校支援の事業を、学校の希望に応じて学校支援コーディネーターがコーディネートするしが学校支援センターにおいて、豊富な知識や経験を持つ地域の人々や企業・団体・NPO等(支援者)と学校間のコーディネートを行うことができた。

■県内全ての小学生を対象とした滋賀の水、山、田に関わる文化体験学習の実施

学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開する「湖の子」は、昭和58年の就航以来、毎年学校の参加率は100%である。また、森林への理解と関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちの人と豊かにかかわる力を育むため、学校教育の一環として、小学4年生を対象に森林環境学習を実施するやまのこを、平成22年度以降は県内ほぼすべての小学校で実施している。また、農業体験を通じて農業への関心を高め、生命や食べ物の大切さを学ぶ「農からの食育」を推進するため、農産物を「育て」、「収穫し」、そして「食べる」という一貫した体験学習の取組たんぼのこを県内約9割の小学校で実施した。

④教員を対象とした文化研修機会の充実

■文化・芸術を体験する教員向け研修機会の提供

滋賀次世代文化芸術センターで、芸術と教育の連携を深めるため、美術館や劇場など文化施設と連携し、教員・講師・スタッフを対象とした研修会を実施した。

2. 未来の文化の担い手の育成

重点施策4 若手芸術家等の育成・支援

滋賀には、芸術系専門学科を有する高校や大学があり、芸術家を目指す若者が活動しています。また、学校のクラブ活動などで積極的に文化活動を行っている若者も数多くいます。

また、びわ湖ホールや文化産業交流会館、陶芸の森などの県立文化施設においては、それぞれの施設の特色を生かして、若手芸術家の育成に取り組んでいます。

これらの方々は滋賀の将来の文化の担い手であり、本県の文化の継承と発展に大きく貢献することが期待されます。

このことから、滋賀から音楽家、役者、画家、陶芸家、伝統文化伝承者などが育ち、県内外で活躍している姿を目指して、様々な分野の若手芸術家など（若手芸術家や芸術家を目指す若者）の育成や支援をする取組を充実していきます。

【重点施策4の総括（成果と課題）】

滋賀県芸術文化祭（文学祭、美術展、写真展等）における若者（30歳未満）の参加者数は、平成29年度の近代美術館の休館により、特に美術展覧会は夏開催となったため、作品出品数が大幅に減少したものの、平成30年度は、文学祭において県内文化団体が県内の高等学校文芸部に作品の指導および出品の呼び掛け等を実施したことにより、出品者数が増加した。また、写真展覧会では、平成24年度から20歳以下を対象としたヤング写真展を同時開催しており、県内文化団体の参加呼び掛け等により、年々出品者は増加傾向にある。いずれも、今後も周知活動等を通じて、若者の出品や芸術文化祭への参加を促す必要がある。

高校生の県外への活動の広がり把握する指標となる全国高等学校総合文化祭への派遣人数は、平成27年度に滋賀県での全国総合文化祭の開催以降、純増している。今後、令和3年度に開催される近畿高等学校総合文化祭滋賀県大会に向けて、滋賀県高等学校文化連盟と連携を強化しながら、文化部の活動の活性化に資する取組を推進していく。

若手芸術家の育成においては、次世代アートフェスティバル（びわ湖☆アートフェスティバル）において、滋賀県次世代文化賞受賞者や県内の若手芸術家に発表の機会を提供することができた。

また、滋賀県在住、在学、在勤または出身の新進演奏家を対象にオーディションを実施し、リサイタルの機会を提供する、湖国新進アーティストによる演奏会「ザ・ファーストリサイタル」において、本県の演奏家を広く県内外に紹介するなど、今後演奏家として活動できるよう支援した。

若手芸術家等の育成・支援には民間企業や教育機関との連携が必要不可欠であり、今後、産学官のつながりをより強め、若手芸術家等の育成・支援に努める必要がある。

【評価指標】

評価項目	平成26年度 （現状）	平成28年度 （実績）	平成29年度 （実績）	平成30年度 （実績）	令和2年度 （目標）
滋賀県芸術文化祭（文学祭、美術展、写真展等）における若者（30歳未満）の参加者数	41人	76人	43人	92人	100人
全国高等学校総合文化祭への派遣人数	278人 （25年度）	359人	371人	374人	300人

【主な取組結果】

①若者の文化活動の促進

■滋賀県高等学校総合文化祭などの開催

滋賀県高等学校総合文化祭を毎年開催するなど、文化部活動をさらに充実させ、芸術文化活動の振興・普及を図る機会を提供することができた。

■高等学校、特別支援学校の文化部活動の活性化に向けた取組

高等学校等文化芸術活動ジャンプアッププロジェクトにおいて、専門家による指導等により、文化部活動の活性化を図ることができた。今後は、令和3年度に開催される近畿高等学校総合文化祭に向けて、文化部活動をさらに活性化させていく必要がある。

■若手芸術家などを対象としたフェスティバルなどの開催

国内外で活躍する芸術家の指導等により、滋賀の文化を担う若手を育成するため、次世代アートフェスティバル(びわ湖☆アートフェスティバル)において、滋賀県次世代文化賞受賞者や県内の若手芸術家に発表の機会を提供することができた。また、滋賀県在住、在学、在勤または出身の新進演奏家を対象にオーディションを実施し、初めてのリサイタルの機会を提供する湖国新進アーティストによる演奏会「ザ・ファーストリサイタル」において、本県の演奏家を広く県内外に紹介し、今後演奏家として活動できるよう支援した。

近代美術館では、今後活躍が期待される若手作家の作品展示等を行う若手作家作品制作展示等地域交流事業を実施し、若手作家の発表機会および交流の場の提供を行った。

■若者の文化活動の場としての県立文化施設の利用促進

文化産業交流会館において、25歳未満の個人または団体(代表者と構成員の過半数が25歳未満である団体)が、イベントホールまたは小劇場を演劇、音楽、舞踊などの舞台芸術活動のために利用する場合は利用料金を減免することにより、広く若者に対して利用促進を行った。

■文化施設以外で、文化・芸術活動ができる場の情報収集および提供

県域レベルの各ジャンルの文化芸術活動を網羅した総合的な情報冊子「れいかる」を発行するほか、県の歴史や自然、芸術などを幅広く紹介する湖国の総合文化誌「湖国と文化」を県内外に配布し滋賀の多様な文化を紹介することができた。

■若者を含め多くの県民が参加できる滋賀県芸術文化祭の開催

美術展覧会、写真展覧会、文学祭を開催し、県民の意欲的な創作活動の発表の場を提供し、文化芸術に親しむ機会とすることができた。また、18歳未満の出品については、出品手数料を減免することにより、若者の芸術文化祭への参加を促した。

②若手芸術家、伝統文化伝承者などの育成・支援

■県立文化施設における若手芸術家の育成

びわ湖ホールにおいて、ホール専属の声楽アンサンブルを運営することを通じ、若手声楽家の育成を図ったほか、オペラの若手指揮者の養成に資するため「指揮者セミナー」を行った。

文化産業交流会館では、「邦楽・邦舞演奏家養成事業」を展開し、伝統芸能分野の若手芸術家育成に努めた。いずれの年度・分野においても著名な指導者を招き、概ね9月～翌年2月にかけて定期的な稽古を実施するとともに、芝居小屋「長栄座」事業にその成果発表の場を設け、鑑賞者からも好評を得た。今後は、若手演奏家のニーズに合った稽古日数の設定や内容を検討し参加しやすい環境整備を行う必要がある。

陶芸の森において、アーティスト・イン・レジデンス(滞在型共同創作研修)を実施し、若手陶芸家の育成を図るとともに、地元作家との交流の機会を提供した。

■若手芸術家の活動支援

次世代アートフェスティバルを実施し、多くのアーティストや団体の出演や協力を得て、つながりを形成することができ、若手芸術家の発表の機会と芸術に触れる機会を提供することができた。

■地域で伝承されてきた技術の保存・継承・発信への支援

本県の優れた地域資源である地場産業等の「稼ぐ力」を高め、時代の変化に適合する新たな取組を総合的、継続的に支援する滋賀の地域産業成長戦略支援事業により、外部委員を含めた施策推進協議会を運営・開催した。また、地場産業および地域特産品の振興やブランド力向上のために、各組合が実施する販路開拓、後継者育成、新商品開発などの戦略的な取組に対して補助を行った。今後も、より効果的に実施できるよう、内容や発信方法について常に検討を続ける必要がある。また、継続的、定期的の実施することが認知度向上に必要である。

知度およびソフト力向上には至っていない。

■滋賀ならではの伝統文化の継承

県指定や県選択等の民俗芸能、祭礼行事の保存継承を図っていくため、新たな支援の仕組みを検討し試行する滋賀のまつり継承支援モデル事業により保護団体の意識調査を実施し、県内における民俗芸能や祭礼行事保存継承にかかる課題を把握することができた。保護団体と県民が交流する現地探訪会や研修会を開催し、祭りが持つ魅力や地域力を相互に発見・理解する機会を提供することができた(事業期間は平成28年度のみ)。

③顕彰制度の充実

■若者を対象とした顕彰

滋賀県次世代文化賞を設け、国内外の水準の高いコンクールや展覧会等で最優秀賞等の成績を修めるもしくはその活動において将来を一層期待される個人または団体に対し表彰を行った。例年、音楽、美術部門からのみの受賞者となっており、それ以外の部門の掘り起こしを行う必要がある。

④若手芸術家などの活動情報の収集および発信支援

■「滋賀文化のスズメ」活用による若手芸術家の情報収集・発信支援

サイトの周知を徹底し、若手芸術家の登録数の増加・充実を図るとともに、文化施設や文化団体などへも周知することで芸術家の情報発信の支援を行った。

2. 未来の文化の担い手の育成

重点施策5 文化活動を支える人材(アートマネージャーなど)の育成・支援

文化には、「つくる」「観る」に加えて「支える」役割が重要です。文化・芸術活動の企画・運営や文化施設の管理運営を行うにあたって、活動全体を適切にマネジメントし、文化芸術のつくり手(「つくる」)と受け手(「観る」)をつなぐ役割を果たすアートマネージャー(「支える」)が必要です。

滋賀には、文化団体、文化施設職員、文化ボランティアなど支える活動をされている方々が多くおられ、研修などの実施により、これらの方々のアートマネジメント能力の一層の向上が必要です。

また、県内の文化施設間、芸術家、文化団体、大学、企業などの力を活かし、つなぐためには中間支援的な調整能力を持つ人材が必要です。

このことから、滋賀でアートマネージャーや文化ボランティアなどが育ち、芸術家、伝統芸能伝承者、県民などを支えながら、文化活動が活発に展開されている姿を目指して、文化活動を支える人材を育成・支援していきます。

【重点施策5の総括(成果と課題)】

アートマネジメント研修の施設職員に対する受講割合は、公立文化施設協議会職員研修会参加者数および公立文化施設協議会と文化・経済フォーラム滋賀が共催するセミナーの参加者数の合計をもとに算出している。平成28年度までは文化産業交流会館におけるアートマネジメント人材育成講座は1回完結型の分野ごとの講座形式をとっていたが、平成29年度からはアウトリーチ事業の人選講座とし、平成30年度から、県立大学と連携し、文化施設職員を含む一般参加者および大学生が共に講義形式でアートマネジメントの講座を受講し、コンサートを作り上げていくという実践型の講座形式とした。数回の受講が必要であるため、受講者数は前年までに比べて減少したが、より実践型の講義によりアートマネジメント人材育成に繋がった。

県立文化施設の文化ボランティアの数は、近代美術館の休館等により減少し、目標数値には届いていないものの、琵琶湖博物館のリニューアルによる交流空間の再構築により、平成30年度は増加している。びわ湖ホール劇場サポーターにおいては、平成28年度から制度を見直し、第1期から第21期までの劇場サポーターを対象とした活動を展開することとし、活動内容も充実させた。今後も、劇場サポーターの募集を引き続き行い、さらなる人的ネットワークの拡大を図り、舞台芸術の普及に努める必要がある。

文化活動を支える人材(アートマネージャーなど)の育成・支援においては、中間支援のできる人材育成がまだ十分ではないことから、今後も、研修や現場での支援等を通じて、中間支援的な調整能力を持つ人材の育成に努める必要がある。

【評価指標】

評価項目	平成26年度 (現状)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和2年度 (目標)
アートマネジメント研修の施設職員に対する受講割合	19.7%	21.2%	19.9%	18.5%	40.0%
県立文化施設の文化ボランティアの数	576人	593人	550人	606人	700人

【主な取組結果】

①文化活動を支える専門人材の育成・支援

■文化行政職員や文化施設職員を対象としたアートマネジメント研修の実施

芸術文化活動を担う市町行政職員をはじめ、文化施設運営者向けに、文化活動を支えるための基礎的な知識を養う場として、県内行政職員等向けアートマネジメント研修を開催した。

びわ湖ホールが会長館として、また事務局を担っている滋賀県公立文化施設協議会では、施設の管理運営や自主文化事業の企画・立案等に関する講習や舞台技術に関する講習を行うため、加盟館等を対象としたびわ湖舞台芸術スタッフセミナーを実施し、例えば、集客力アップのための広報やまちづくりにおける公共ホールの役割等、テーマごとに講座を開催した。

文化産業交流会館で個々の専門分野に精通した著名な講師を招いた講座を複数回にわたり展開し、人材の育成を図った。平成28年度までは、座学を中心とした単独講座を実施してきたが、平成29年度からは事業運営に重点をおいた実践講座を実施し、公立館同士の繋がりが深まるとともに各分野の専門家の育成を図ることができた。平成30年度は、「大学連携」が実現し、「まちづくりとアート」をテーマに実施することができた。

■文化活動を支える団体や人材育成を目的とした研修などの実施

滋賀次世代文化芸術センターでは、高校、大学と連携し、学校での連携授業の場などで高校生や多くの大学生がスタッフとして関わることで、学生文化ボランティアの研修の場を作った。

■文化を支える人材や団体への活動支援、中間支援機能の充実

琵琶湖博物館では、自主的・主体的に博物館活動に参加する「はしかけ制度」や「フィールドレポーター制度」を設け、自らを高めながら博物館とともに成長する人が活躍するための場を提供している。平成30年度末で「はしかけ」は25グループ、387人、「フィールドレポーター」は218人の会員数がある。

■滋賀県ヘリテージマネージャーの養成支援

地域で文化財の保存・継承と活用を推進するリーダーとなるヘリテージマネージャーの育成を支援した。

②文化ボランティアの育成

■文化ボランティアなどの拡充および活動の促進

びわ湖ホールで、びわ湖ホール劇場サポーターを募集し、劇場サポーターを対象とした研修を行うとともに、サポーター活動の実践を通じて舞台芸術の普及に努めた。

また、近代美術館では、美術館と利用者をつなぐ役割として、作品解説や教育普及活動のスタッフとして活動するボランティア組織を運営している。平成29年度からの休館に伴い、サポーターの募集・育成は休止しているが、休館中に学校や地域で行っているワークショップや出前授業の実施にあたり、これまでのサポーターがスタッフとして活動している。

■若者による文化ボランティアの拡充

滋賀次世代文化芸術センターでは、文化施設・芸術家と学校等を結び、学校の授業で文化芸術体験を行うためのコーディネートや、それをサポートする文化ボランティアの育成等を行い、文化施設・芸術家と学校等を結び、学校の授業で文化芸術体験を行うためのコーディネートをサポートする文化ボランティアを育成した。

■文化ボランティアの体験研修の充実

滋賀次世代文化芸術センターによる美ココロ・パートナーシップ事業で、通常学級に通えない子どもたちを対象に文化施設や芸術家などと連携した授業を実施し、文化・芸術体験学習の機会を提供した。これにより、毎年3人の若手芸術家を育成した。

③教員を対象とした文化研修機会の充実(再掲)

■文化・芸術を体験する教員向け研修機会の提供

滋賀次世代文化芸術センターで、芸術と教育の連携を深めるため、美術館や劇場など文化施設と連携し、教員・講師・スタッフを対象とした研修会を実施した。